



事例にみる高年齢労働者の活躍

～(株)高齡社の取組みから学ぶ～

中央労働災害防止協会 健康快適推進部長 林 かおり

第1回ではさまざまなデータを通して高年齢労働者の実態を見ていただきました。そして第2回ではエイジフレンドリーガイドラインの説

明を行いました。さて今回は、実際に高年齢労働者が生き生き働いている現場の実態を紹介していきます。

「高齡者」？ いいえ、「高齡社」です

ユニークなネーミングの(株)高齡社は、定年になった高齡者を対象とした人材派遣会社です。設立は2000年。高校卒業後に東京ガスに入社し、その後、東京ガスの子会社で社長にまで昇

進した上田研二氏が62歳の時に起業しました。同社では表1の経営理念を掲げ、定年を迎えても気力、体力、知力のある人たちに、働く場と生きがいを提供しています。

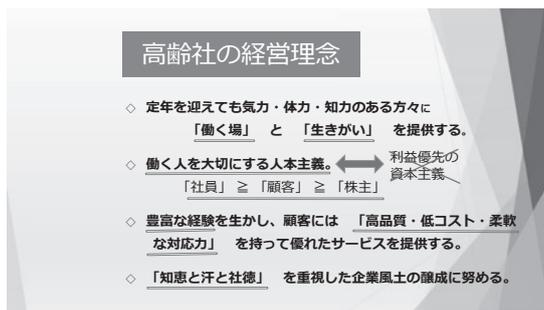


表1 経営理念

現在、人材派遣に登録している人は1,200人ほどで、平均年齢は72 (!) 歳 (2024年2月現在)。うち、400人ほどが実際に就労しています (就労率35.8%) (図)。中には83歳でマンション管理業務に携わっている方もいます。

派遣業務は多岐にわたりますが、設立者が東京ガス出身ということもあり、東京ガス関係の業務が65%、東京ガス以外の業務が35%となっています (表2)。

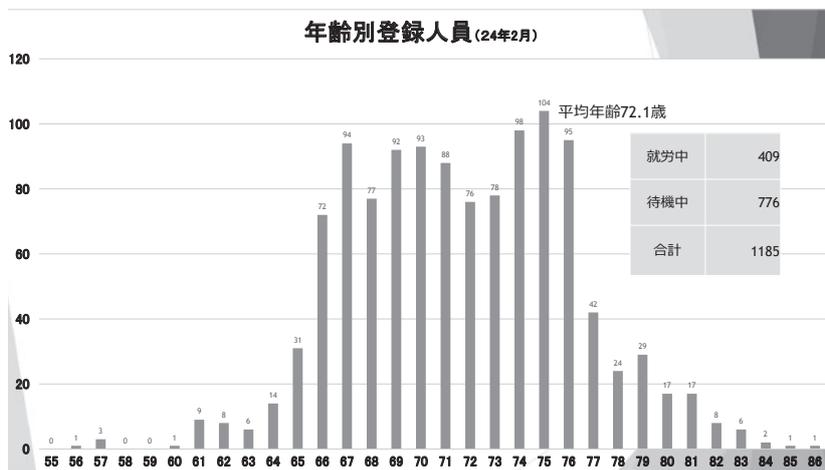


図 登録者の年齢分布

派遣業務事例 (2023年8月現在)		(数字は就労者数)	
東京ガス関係 : 約65%		東京ガス以外 : 約35%	
営業・業務用需要家巡回	37	営業業務補助・運転補助	23
ガス工事関係業務	33	レンタカー受付	20
事務関係	31	マンション管理	13
倉庫管理	29	清掃	13
集合TES検査・内覧会	19	車両移送	8
保安指令センター問合せ対応	16	施設管理	7
ガス電気切替提案営業	9	倉庫管理	7
行政関係への申請手続き	9	廃品・リサイクル品回収	5
LNG基地関連業務	9	事務関係	5
ショールーム受付	8	ゴルフ場コース管理補助	5
人材育成支援	7	ガスメータ吸着回収	4
各種営業関係業務	7	スーパーマーケット各種業務	4
制服維持管理業務(洗濯等)	5	LNGローリー受入管理	3
ガスプラント保安管理	4	システム商品写真チェック	3
電話受付	4	各種営業関係業務	3

表2 派遣業務事例

「きょうよう」のうれしさ、「きょういく」の楽しさ

定年退職したことで家にこもりがちで、居場所は地元の図書館だけ。外に出るのは犬の散歩だけという人も少なくありません。そして、家にいることで配偶者の生活圏までも乱しかねません。そこでメリットの一つに、「きょうよう」と「きょういく」があります。「教養」と「教育」ではありません。仕事を通じて「今日、用」があるうれしさと、「今日、行く」ところがある楽しさを得ることができるのです。

ほかに、働くことで適度な責任感と緊張感、達成感が生まれる喜びがあります。加えて、社会とつながっているという喜びや自身の働き場所や家庭での存在を実感できます。さらに、毎

日働くわけではなく週3日程度の勤務なので、無理なく働くことで自由度も高く、だけど収入はあるので年金だけの不安からも解消されます。

高齢者が働くことは、自身のメリットだけではありません。派遣先(お客さま)のメリットとしては、多様な働き方を受け入れているため、期間変動業務に対応できます。また、労務管理を軽減、低コスト化でき、さらには豊富な知識と経験で即戦力になり、若い人にはない人間性で周りから頼られます。実際に、高齢者を派遣することで、「アドバイザーのような役割をしてもらっていてありがたい」という感想をいただくこともあるそうです。

「強み」と「弱み」を理解して

数々のメリットがある一方、課題もあります。一つは、登録者と仕事のマッチングの難しさ。これまでの業務や人生経験はあるものの、人材派遣として与えられた業務に適合できるかは、経験、能力、適性、体力、腰痛等の持病などさまざまな面をクリアする必要があります。また、公的資格、自動車の運転、パソコン操作などの勤務条件が必要な場合も。加えて、通勤時間、勤務日数、勤務する曜日など細かい部分での条件にマッチできる人を見つけることが難しい状況です。

それから、高齢者ゆえの「健康への不安」「転倒事故等の労働災害の懸念」「自動車の運転への目配りの必要性」があります。若い時にできていたことが加齢に伴ってできなくなってきた

こともあるでしょう。しかし、本人はずっと若いままの感覚があるので、そこをうまく分かってもらう必要があります。また、受け入れ側(派遣先)は書類の年齢を見ると「こんな高齢者で大丈夫なの?」と心配になるケースもあるそうです。このあたりは顧客の先入観を変えたいと、同社の営業が詳しく説明をして、納得いただいた上で人材を派遣しています。

メリット、デメリットの双方がありますが、同社では「はたらくところがけ」として、表3を掲げています。登録している派遣社員には、いつもこのところがけを念頭において業務にあたってもらうことにしています。特に、「自慢話は1回まで」「謙虚な気持ちで仕事に取り組む」は何度も繰り返し伝えていきます。

はたらくこころがけ
(1) あいさつは自分から。新入社員のつもりで
(2) 身だしなみには気を使うこと。清潔に、爽やかに
(3) かつての部下でも 年下でも「さん」で呼ぶ
(4) 自慢話は1回まで。言わないように意識する ・過去の自慢ばなし（経験談）はイヤミ
(5) 派遣先はお客さま。給料はお客さまからいただいている
(6) 仕事の指示者は派遣先の責任者。指示を仰ぐのが基本
(7) 以前の職場ルールがそのまま通じるとは限らない ・疑問に思ったら事前に確認。派遣先のルールや指示に従う
(8) 過去の知識・経験を活かしつつ、謙虚な気持ちで仕事に取り組む
(9) 外から見れば派遣社員であっても、その会社の正社員、 ・派遣先の看板を背負っている。
(10) 交通事故・作業災害には細心の注意。起きたらすぐに報告。

☆派遣先の相談や困ったことがあれば、何でも高齢社の営業担当まで

表3 はたらくこころがけ

楽しみのために働ける幸せ

さて、実際に働いている方の例を取り上げてみましょう。

ケース1

東京ガスの本社ビル内にあるコンビニエンスストアで陳列品の整理等を行っているAさん。元東京ガス従業員で、一時は退職して専業主婦でしたが、その後、同社に人材派遣登録して働き始めました。彼女の趣味は社交ダンス。週に数日働くことが生きがいとなっており、また給料が社交ダンスの衣装を購入する費用代の足しにもなっています。社会貢献と自分の楽しみの2つを味わっています。

ケース2

ガス会社の販売店では紛失・盗難防止のため制服の自宅持ち帰りを禁止しているところがあり、その場合には社内の施設で制服の洗濯・アイロンがけを行う必要があります。この業務を

担当しているBさんの趣味は卓球で、世界マスターズ選手権にも出るほどの腕前です。コーチ付きでの練習は思いのほか高額なことから、働いて得る収入は貴重です。しかも、人の役に立っているという喜びも得られていて、楽しい毎日を過ごしています。

ほかにも、週3回程度の勤務なので、空いている日は趣味のゴルフを楽しんだり、親の介護を行ったり、自治会役員になって活動をしたり…という方たちも。日本では高齢になっても生き生きと働いている人たちがいるということを知りつけ、同社は昨年、米国紙であるニューヨークタイムズの取材を受けたそうです。その記事によれば、「高齢社は東京にある人材派遣会社で、求人情報には応募者は原則として60歳以上の方」と記載されています。また、村関社長が「雇用主が高齢者の雇用をより受け入れるようになってきていると確信している」「65歳以上、もしくは75歳までの人はとても活動的で健康的です」と述べたとされています。

高齢者に配慮した安全衛生活動の取組み

ここまで同社の設立経緯や業務内容、実際に働いている人の事例を述べましたが、同社が実施している安全衛生活動に目を向けてみましょう。ここでも数々の高齢者に配慮した取組みがあります。

働く上で健康であることが不可欠で、法的にも義務づけられているので、フルタイムへの健康診断受診要請と併せて義務でないパート勤務者にも受診報告をお願いしています。また、コロナウイルス、インフルエンザの防止対策の

徹底として、インフルエンザワクチンの一部費用補助を実施しています。

同社では、入社・導入研修時に安全教育を実施しています。研修内容は、安全衛生・交通安全教育、就業規則や派遣先での心構え、ビジネスマナー教育に加え、運動の推進を含む生活習慣について、高齢者に多い転倒の防止についても含まれています。特に、転倒は高齢者にとってはもっとも多く危険な事故なので、転倒して寝たきりになったときのリスクもきちんと伝え

るようにしています。また、代表取締役社長から毎月、働いている人へのメッセージをメールで配信しています。毎月実施している安全衛生委員会の議事内容は業務用ホームページに掲載し、事事例の共有や、安全衛生関連の各種情報提供、産業医によるテーマ講話等を行っています。

それから、同社の営業担当による担当派遣者へのケアも大切な活動の一つです。健康状態はどうか、派遣先の職場環境が危険な状態になっていないかを確認して、トラブルがあればすぐに対応するようにしています。

自動車の運転に関しては、70歳以上の派遣社員全員対象に、(独)自動車事故対策機構(NASVA)による安全運転診断を行っています。研修の最後には各受講者に注意したい点をフィードバックしてもらっています。

そのほか、7月の全国安全週間、10月の全国労働衛生週間、春・秋の全国交通安全運動時などには、自社における活動を社長メッセージとして発信。また、腰痛予防対策や転倒災害防止等の注意喚起を促したいことが記載されている中防災作成ポスターを本社に貼付して見てもらっています。

現・代表取締役社長のモットーは「は・げ・あ・た・ま」

現・代表取締役社長は村関不三夫氏(写真)。村関氏も東京ガス出身で、取締役常務執行役員や関連会社の取締役会長等を経て、2021年4月に就任されました。モットーは「は・げ・



写真 現・代表取締役社長の村関不三夫氏

あ・た・ま」。これまで村関氏が掲げていた「[あ(明るく)]」「[た(楽しく)]」「[ま(前向きに)]」で仕事をしよう」という思いに加え、同社に来てからは、「元気だから働く」のではなく、「働くから、元気になる」ということを実感したため、「^{はたら}働いて^{げんき}元気になろう。^{あか}明るく^{たの}楽しく^{まえ}前向きに」(は・げ・あ・た・ま)がモットーになったそうです。

村関氏は高齢化社会への提言として、「高齢者が元気に働く社会の実現」を掲げています。働くことで適度な緊張感と責任感が作られ、それにより健康が維持でき、健康寿命も伸びます。健康寿命が延びることで社会保障費が軽減され、現役世代の負担軽減に結実します。しかも、働く高齢者が多くなることで消費が活性化され、税収も伸びます。このようなことから、高齢者が働きやすい環境づくりを進めるだけでなく、「高齢者が働くことは特別ではない」という意識に変えたいと、村関氏は言います。

高齢者が働く意義は？～健康、つながり、そこそこのお金

積極的に高齢者雇用を進める取組みを紹介しましたが、どのように感じたでしょうか。最後に村関氏の言葉で締めくくります。

「当社では『人は宝・人は財産』、その考え方を基本としています」とのこと。また、村関氏が掲げる、幸せな老後を過ごす3条件は「健康」「つながり」「そこそこのお金」。お金を稼ぐためだけではなく、健康で無理なく働くことで楽しみを見だし、社会とのつながりを保つことで、自分自身の心のゆとりが生まれて

いきます。

人生100年時代ともいわれる昨今。今回、同社でお伺いした話は、いつまでも生き生きと働く場があることで、心もからだも健康的になれることを教えてくれたと感じています。同社の取組みは特別なものではなく、読者の皆さんの事業場でもちょっとした工夫で高齢者が楽しく元気に働ける場になると考えます。幅広い世代が個々を思いやって働ける場が多くなることを願ってやみません。